

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表

【言語聴覚療法学科】 合計授業時間数： 1,755時間

	教育内容	科目名	単位	時間	実務経験のある教員等による授業科目		
					チェック欄	時間数	実務経験
基礎分野	人文科学	コミュニケーション論	4	60			
		倫理学	2	30			
	社会科学	社会学	2	30			
		心理学	2	30			
	自然科学	生物学	2	30			
		情報処理	2	30			
		公衆衛生学	2	30			
統計学		2	30				
外国語	英語	4	60				
保健体育	保健体育	2	30				
専門基礎分野	基礎医学	医学総論	2	30			
		解剖学	4	60			
		臨床生理学	2	30			
		病理学	2	30			
	臨床医学	内科学	2	30			
		精神医学	1	15			
		形成外科学	1	15			
		小児科学	2	30	✓	30	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		耳鼻咽喉科学	2	30			
		臨床神経学	2	30			
	臨床歯科医学	臨床歯科医学(口腔外科学)	2	30			
	音声・言語・聴覚医学 (神経系の構造、機能及び病態含む)	聴覚医学(聴覚系の構造・機能)	2	30			
		音声医学(呼吸・発声・発語の機能)	2	30			
		言語医学(神経系の構造・機能・病態)	2	30			
	心理学	生涯発達心理学	4	60			
		臨床心理学	2	30			
		認知心理学	2	30			
		学習心理学	2	30			
		心理測定法	2	30			
	言語学	言語学概論	2	30			
		心理言語学	2	30			
	音声学	音声学	2	30			
	音響学	音響学	2	30			
聴覚心理学		2	30				
言語発達学	言語発達学	2	30				
社会福祉・教育 (社会保障制度及び関係法規含む)	リハビリテーション概論	2	30	✓	30	特養・老健に12年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
	社会福祉学	2	30	✓	30	特養・老健に12年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
専門分野	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論Ⅰ	2	30	✓	30	特養・老健に12年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		言語聴覚障害学総論Ⅱ	2	30	✓	30	特養・老健に12年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
	失語・高次脳機能障害学	失語・高次脳機能障害学概論	1	15	✓	15	病院に31年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		失語・高次脳機能障害学Ⅰ	2	60	✓	60	特養・老健に12年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		失語・高次脳機能障害学Ⅱ	2	60	✓	60	特養・老健に12年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		失語・高次脳機能障害学Ⅲ	3	90	✓	90	病院に19年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
	言語発達障害学 (脳性麻痺及び学習障害含む)	言語発達障害学概論	1	15	✓	15	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		言語発達障害学Ⅰ	1	30	✓	30	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		言語発達障害学Ⅱ	2	60	✓	60	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		言語発達障害学Ⅲ	2	60	✓	60	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
	発声発語・嚥下障害学 (吃音含む)	発声発語障害学概論	1	15	✓	15	病院に8年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		発声発語障害学Ⅰ	3	90	✓	90	病院に19年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		発声発語障害学Ⅱ	2	30	✓	30	病院に31年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		発声発語障害学Ⅲ	2	30	✓	30	病院に8年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		発声発語障害学Ⅳ	2	30	✓	30	老健に14年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		発声発語障害学Ⅴ	2	30	✓	30	病院に8年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		嚥下障害学概論	2	30	✓	30	病院・訪問看護に12年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		嚥下障害学Ⅰ	2	60	✓	60	病院に19年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
	嚥下障害学Ⅱ	2	60	✓	60	病院に8年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
	聴覚障害学 (聴力検査、補聴器及び人工内耳含む)	聴覚障害学概論	2	30	✓	30	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		聴覚障害学Ⅰ	1	30	✓	30	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		聴覚障害学Ⅱ	1	30	✓	30	病院に7年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
		聴覚障害学Ⅲ	1	30	✓	30	病院に42年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。
聴覚障害学Ⅳ		2	60	✓	60	病院に42年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
臨床実習	臨床実習Ⅰ	4	160	✓	160	病院等に5年以上勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
	臨床実習Ⅱ	8	320	✓	320	病院に5年以上勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
選択必修分野 (専門基礎分野又は専門分野を中心として講義又は実習を行なう)	解剖学実習	1	45				
	一般臨床医学	1	15				
	接遇・マナー演習Ⅰ	1	15				
	接遇・マナー演習Ⅱ	1	15				
	言語評価技術論	2	60	✓	60	病院に19年勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
	言語聴覚療法学	4	120	✓	120	病院に6年以上勤務。言語聴覚士としてリハビリテーションに従事。	
合計93単位(2835時間)以上			145	2955		1755	